産経新聞　朝刊　和歌山版　2020年8月23日

くじら日記

太地町立博物館から

魅力のふれあい体験

お薦めは「カヤックアドベンチャー」

連日の猛暑、感染症対策、夏季休暇の短縮、いつもと違う夏を皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

くじらの博物館のクジラたちはというと、温暖な海域を好むコビレゴンドウやマダライルカなどは、食用旺盛で無病息災といった様子。一方、暑さが苦手なカマイルカやスジイルカは、水分補給など体調管理に気を付けていることもあり、夏バテせずにいます。むしろ、夏休み期間中は久しぶりに多くのお客さまにぎわい、刺激が多いためか、より活気づいているように見えました。

さて、今回は、くじらの博物館の魅力の1つである「ふれあい体験」について紹介したいと思います。まずは定番の「餌あげ体験」から。

シシャモなどの小魚が5匹入ったバケツを手に、海上に設置されたふれあい桟橋に降り立つと、早速クジラたちが口を開けてお出迎え。今夏は、おなじみのバンドウイルカ、頭が大きく潜水艦のような姿のコビレゴンドウ、目がクリっとした愛くるしい顔のハナゴンドウ、爬虫類のような顔立ちのシワハイルカ、小型のクジラのカズハゴンドウ、そして1歳の子クジラ「ひよか」など約15頭のクジラたちが皆さまをお迎えしました。

クジラたちの海を冒険できるカヤックアドベンチャー

柵などの隔たりがない中、間近で、気に入ったクジラに自由に餌をあげることができます。さらに、クジラたちとの距離を縮めたい方は、クジラたちが暮らす海を、カヤックで餌をあげながら冒険できる「カヤックアドベンチャー」がお薦め。

コビレゴンドウやオキゴンドウなど、私たちの10倍ほどの巨体が海面から姿を現し、大きな口を開け近づいてくる様は圧巻です。豪快に水をかけてきたり、カヤックを押してきたりすることも。クジラの大きさや力強さなどを体感できるスリル満点のイベントです。またイルカに気軽に触ることができる「イルカにタッチ」も人気です。

ほかにも、浜辺でイルカと触れ合うことができる「ビーチでふれあい」、イルカショーステージでイルカにジャンプなどのサインを出すことができる「イルカのトレーナー体験」、クジラの背びれにつかまって泳ぐことができる「ふれあいスイム」という体験プログラムもありますが、新型コロナウイルス対策のため、残念ながら現在中止しています。

くじらの博物館では、以前より、「急接近」という言葉にかけて、クジラの距離の近さとお客さまの来訪に期待を込めた「求接近」を合言葉にクジラの展示に力を入れてきました。その魅力を存分に体感できるふれあい体験に参加して、残暑を乗り切ってみてはいかがでしょうか。クジラたちの「超接近」にご期待ください！

（太地町立くじらの博物館副館長　稲森大樹）